

いざというときのために
脳卒中の症状を
覚えておいてください。

Q4

脳卒中にならないためにはどうすればよい？

A 脳梗塞と脳出血はいわゆる生活習慣病であり、その原因は高血圧、糖尿病、高コレステロール血症、喫煙です。すなわち、規則正しい食生活や適度な運動、禁煙が重要です。かかりつけの医師をみつけて正しく血圧、血糖値、コレステロール値を管理してもらうことも大切です。またある種の脳梗塞は不整脈が原因となりますので、こちらの発見、治療も大切です。さて一方くも膜下出血は生活習慣とはあまり関係がなく、脳動脈瘤といわれる脳血管のコブが原因で発生することがほとんどです。従ってくも膜下出血にならないためには出血する前に脳動脈瘤を発見することが必要です。これには脳ドックなどで行われる脳MRI（MR A）検査が力を発揮します。出血する前の脳動脈瘤を発見できれば、出血予防のための治療を行うことも可能な場合があります。

Q3

脳卒中になったらどうすればよい？

A 「脳卒中になった人は動かすな！」と昔からよく言われますが、これは一部では正解ですが一部では誤りです。脳卒中と思われる症状が出現している人を無理に起こして歩かせたり、食事を食べさせたりしてはダメです。かといって、じっと動かさずに一晚自宅で寝かせて様子を見るというの大きな間違いです。正解は、安静を保ちつつすばやく医療機関を受診させることです。脳卒中が疑わしければ、臥位の状態ですばやく医療機関に運んでもらえる救急車を利用するのがベストです。では、脳卒中を疑う症状とはどんな症状でしょうか。

それは、

- 1) 急に顔の半分、片方の手足がしびれる、または動かなくなる
- 2) 突然意識がおかしくなる、言葉がでない、他人のいうことが理解できなくなる
- 3) 急に片方あるいは両方の目が見えにくくなる、視野が狭くなる
- 4) 突然に激しく頭が痛む

以上のような症状です。これらの症状がでたらすぐに救急車を呼んでください。当院では365日24時間態勢で脳卒中患者さんを受け入れています。



よく聞く脳卒中という病気、以前の日本では死因の第一でした。一度発作が起ると、麻痺や、場合によっては寝たきりになることもあります。今回は、脳卒中の専門家に解説してもらいます。

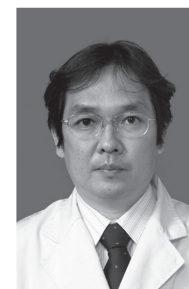
脳卒中とはどんな病気？

Q2

脳卒中になるとどうなる？

A 脳卒中とひとことで言ってもその初発症状や後遺症はそれぞれの疾患によっても違いますし、同じ疾患でも病状が軽いか重いかによっても違ってきます。運がよければ全く後遺症を残さずに社会復帰できることもあります。しかし、一般的には脳卒中になってしまうと半身不随や言語障害などなんらかの後遺症を残すことが多いと理解しておくべきでしょう。

今月のドクター



岐阜市民病院
脳卒中センター長・脳神経外科副部長
村瀬 悟氏
(むらせ さとる)
昭和63年富山医科薬科大学医学部卒業。平成12年岐阜大学大学院医学研究科修了。平成13年岐阜市民病院脳神経外科副部長。平成18年岐阜市民病院脳卒中センター長。日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会専門医

Q1

脳卒中とはどんな病気？

A 脳卒中とは、突然に発生する脳の血管障害であり、簡単にいえば脳の血管がつまったり切れたりして脳にダメージを与える病気です。脳の血管がつまると脳梗塞に、脳の血管が切れると脳出血またはくも膜下出血になります。これら3疾患をまとめて脳卒中といいます。

このあたりに
どうしたらいい？
ドクターのアドバイス

